



今回は、のどかな風景の残る芳賀地区です。土曜には子どもたちの声がにぎやかに響きわたる芳賀公園から、秋の景色が広がる1周約5キロのコースを歩いてみましょう。

芳賀公園から東に進んだ後、道に沿って南下すると大正用水に突き当たります。千ばつ対策として昭和22年に完成したこの水路は、利根川から水が引き込まれ、稲作のための水路として重要な役割を果たしています。水路沿いに植えられた桜

前橋 ウォーカー 井上武士さんが生まれ育ったまち



芳賀地区を歩いてみると、しばしば道に道祖神やお地藏様を見かけます。これは住民の信仰の深さの表れであり、文化財としても大切に守られています。



芳賀地区を横断する大正用水

の木が満開になる春には、観桜会が開かれ花見客でにぎわいます。

桜並木を抜け道を南に進むと、五代神社が見えてきます。ここには芳賀地区出身の作曲家・井上武士さんの記念碑があります。井上さんは大正・昭和時代に活躍し、数多くの童謡や唱歌などを残しました。代表曲には「ぞうさん」や「チュリップ」などがあり、中でも文部省唱歌である「うみ」は日本の歌百選にも選出され、今でも多くの人たちに親しまれています。また、緩やかな上り坂を北に1.5キロほど行った所にある芳賀小は井上さんの出身校であり、校歌の作曲も手掛けています。



井上さんの功績をたたえる記念碑

10月5日に開催された「高円宮杯第63回全日本中学校英語弁論大会」の県大会で1位に輝いた。県内各地区予選を通過した46人が自由なテーマで5分間スピーチを行うこの大会は、英語を話す能力とともに、話の内容も評価の対象となる。

「市の予選会が1位でなかったため、急きょ原稿を練り直して県大会に臨みました。でも、あまり自信がありませんでした」

スピーチのテーマは15歳の意思表示。臓器提供の意思表示ができる15歳になったことをきっかけに、家族で臓器提供について話し合っただけの大切さに改めて気付いたこと。そしてこれからは自分のことは自分で判断して意思決定していく決意を話した。

「これからは自分に問われる責任として、向き合えるように、たくさん知識を吸収していきたいです」

決勝は11月に東京で開催される。「クラスの人たちや先生、家族が応援してくれているので、精一杯頑張ります」

現在、群馬大附属中の3年生。ソフトテニス部で仲間と練習に励んだことが良い思い出。また、昨年ホームステイしたオーストラリアのホストファミリーとは今でも英語で連絡を取り合っている。

「高校生になったら、留学して日本と外国の文化や環境の違いをたくさん学びたい」

将来が希望に満ちている高坂さん。豊かな国際感覚を身に付け、世界を舞台に活躍してもらいたい。



高円宮杯第63回全日本中学校英語弁論大会県代表

高坂 菜さん 15歳
表町二丁目

外国で学びたいという思い

クローズアップ



美しい音色に魅了される

マンダリンのまち前橋・朔太郎音楽祭2011を10月15日・16日に開催しました。中心市街地などでのミニコンサートや、市民文化館でのコンクール・演奏会が行われ、マンダリンとギターが奏でる美しい音色が、訪れた人々を魅了しました。



人権問題に正しい理解を

10月15日、総合福祉会館で人権・同和問題講演会を開催。テレビプロデューサーの栗原美和子さんが「差別のない社会をめざして～橋はかかる」と題して講演しました。自身の体験を基にした現在も残る差別についての話に、参加者は真剣に耳を傾けました。

10月8日・9日、中心市街地で前橋まつりを開催。小学校の鼓笛パレードや山車・みこし、だんべえ踊りなどが行われました。子どもから大人までの参加者と市内外から訪れた多くの見物客は、熱気に包まれた伝統の祭りを満喫しました。

